

Getting Start mdc (Mail Destination Confirm)

Rev.0.45 2007/08/22

目次

Getting Start mdc (Mail Destination Confirm).....	1
1 この文書の目的.....	1
2 What is mdc.....	2
3 How to install mdc.....	2
3.1 Requirement Environment.....	3
3.2 JRE Installation.....	3
3.2.1 How to download and install JRE in Windows.....	3
4 Installation of mdc.....	4
4.1 Download mdc.zip.....	5
4.2 Unzip mdc.zip.....	5
4.3 Execute mdc.....	5
4.4 Setup mdc.....	6
4.4.1 Mail setting tab.....	6
4.4.2 LDAP tab.....	7
4.4.3 About Tab.....	8
5 Setup Mail Client.....	8
6 How to Use mdc.....	9
7 Quit mcd.....	9
8 Restriction.....	9
9 Appendix: mdc configuration file.....	10

1 この文書の目的

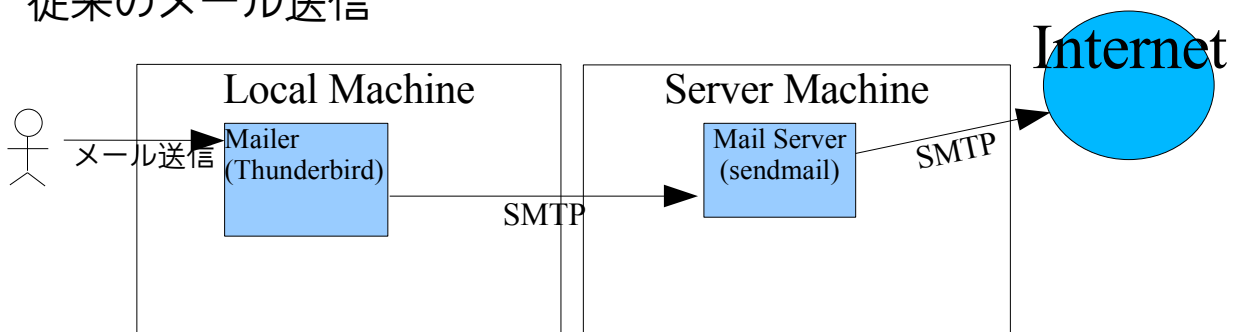
この文書では、メールの宛先を送信時に確認するプログラムである mdc (Mail Destination Confirm)を、とりあえず使う方法について説明します。

2 What is mdc

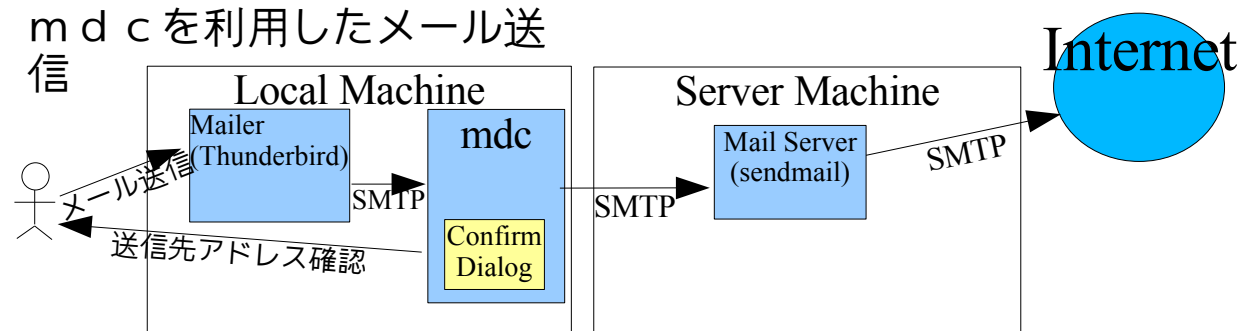
mdcとは、オープンソースでソースが公開されているメール送信時にメールの送信先を確認するソフトウェアです。LDAPと連携することにより、メールの送信先アドレスだけではなく、わかりやすい名前で確認を行うことが可能です。

Thunderbirdのようなメールクライアントと、sendmailなどのメールサーバのSMTP(Simple Mail Transfer Protocol)によるやりとりをプロキシすることによって実現しています。プロキシ方式を利用することにより、多くのメールクライアントに対応することが可能です。また、Javaにより実装されているので、Windowsに限らずLinuxなど多くのプラットフォームに対応しています。

従来のメール送信



mdcを利用したメール送信



3 How to install mdc

mdc を利用方法は以下の手順です。

1. 環境の確認
2. JRE のダウンロードとインストール
3. mdc プログラムのインストール(ダウンロード・設定ファイルの作成・起動)
4. メールクライアントの設定
5. 詳細を以下に説明します。

3.1 Requirement Environment

mdc を利用するためには、メールを利用できる事に加えて、以下の環境が必要です。

- Java 実行環境 JRE 1.4, JRE 5.0 もしくは JRE 6.0
動作テストは、Windows および Linux で、JRE 1.4.2_15, 1.5.0_10, 6.0 update 1 を利用しています。
- グラフィクス・スクリーン 640x480 ピクセル
Windows2000, WindowsXP, Linux Gnome2.2 でテストしています。

3.2 JRE Installation

mdc プログラムを実行するために、Java 実行環境(J2SE JRE)が必要です。

最近の HP や Dell から購入した Windows マシンだとプレインストール済みですが、国内のメーカーから購入したり古いマシンの場合には、インストールされていないので JRE をインストールする必要があります。

※Java 開発環境(J2SE JDK)には JRE が含まれているので、すでに JDK がインストールされている場合に、さらに JRE をインストールする必要はありません。

Windows, Linux 用の JRE は、Sun microsystems の Web からダウンロードが可能です。JRE 5.0 をダウンロードしてインストールしてください。

参考: Linux (Red Hat Linux, SUSE Linux, JDS)でのダウンロードとインストール方法

<http://java.com/ja/download/help/5000010500.xml>

3.2.1 How to download and install JRE in Windows

- <http://java.com/> に接続する



- 「ダウンロード」をクリック



このページには、インストールの方法について詳しい記載があります。JRE のインストールの詳細は、このページを参照してください。

- 「ダウンロードを開始」をクリック

JRE がダウンロードされ、自動的にインストールが開始されます。

なお、この方法では、最新版の JRE が常にインストールされます。

参考:

Windows 版 Java Runtime Environment (JRE) の手動ダウンロードとインストール方法

http://java.com/ja/download/help/win_manual.xml

以上で JRE のインストールは完了です。

4 Installation of mdc

Java 実行環境がインストールされたら mdc のインストールを行います。

手順は以下の通りです。

1. mdc の ZIP ファイルをダウンロードする。
2. ZIP ファイルを任意のディレクトリに解凍する。
3. mdc プログラムを起動する。
4. メールサーバや LDAP サーバへ接続するための設定を行う。

4.1 Download mdc.zip

まずは mdc の ZIP ファイルをダウンロードします。Sourceforge.jp の mdc プロジェクトの「リリースファイル」 <https://sourceforge.jp/projects/mdc/files/> より最新版のリリースファイルを、任意の場所(「マイドキュメント」や「ホームディレクトリ」)にダウンロードします。

※ 2007/8/22 現在

リリース版は、バージョン 0.45 [mdc.zip](#)

deploy 版は、CVS HEAD [mdc.zip](#)

4.2 Unzip mdc.zip

ダウンロードしてきた mdc.zip ファイルを、インストール先のディレクトリ(任意)で解凍します。

Windows では、lhaz などを利用してファイルを解凍してください。

Linux での例を以下に示します。

```
$ mkdir mdc
$ cd mdc
$ unzip ../mdc.zip
Archive: src/NetBeansTest/BetaProject/deploy/mdc.zip
  creating: lib/
  inflating: lib/swing-layout-1.0.1.jar
  inflating: mdc2.jar
```

4.3 Execute mdc

mdc を起動します。

注:

以前のバージョンでは、起動する前に設定ファイルを作成する必要がありましたが、現在のバージョンでは、GUI 画面で設定が行われるので、設定ファイルは自動的に作成されます。

なお、古いバージョンの時に作成し利用していた設定ファイルの情報は、最新版でも引き継がれます。

Windows では、ダウンロードした mdc2.jar をダブルクリックするだけで起動が完了します。

Linux では、bash などのコマンドプロンプトで

```
$ java -jar mdc/mdc2.jar &
```

のようしてプログラムを起動します。

まだ設定が行われていない場合、mdc の設定画面が開きます。

設定済みの場合には、設定画面は閉じられた状態で、タスクバーに mdc が表示されます。

4.4 Setup mdc

mdc の設定画面が開いていない場合には、タスクバーより mdc 設定画面を開きます。

設定画面は、「Mail」と「LDAP」のタブがあり、それぞれ、メールとLDAPの設定を行います。

4.4.1 Mail setting tab

メールタブでは、メールの設定を行います。

「OK」ボタンにより、設定画面が閉じられ設定が有効になります。

「中止」ボタンにより、設定が中止されます。

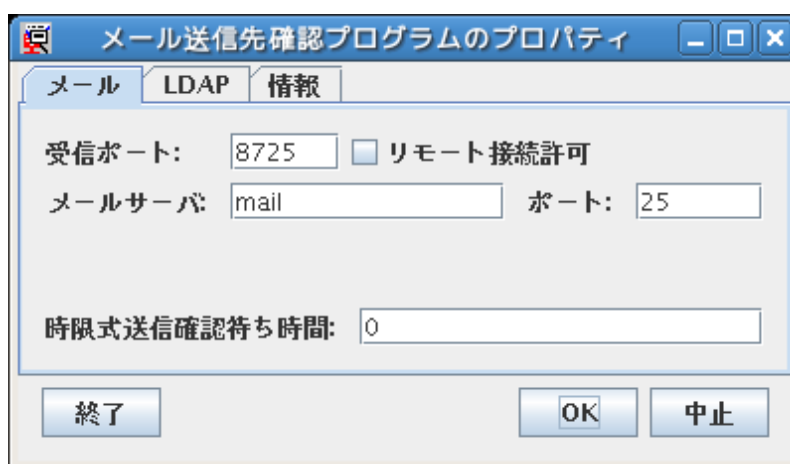


図 1:メール設定画面

受信ポート:

mdc が Mail クライアント(メーラ)からの接続を待つ、ポート番号を指定します。

リモート接続許可:

他のマシンから mdc の利用を許可する場合にチェックします。

例えば、X11 エミュレータを利用した Windows 上のメールクライアントから X11 上で mdc を利用したい場合などです。

通常はチェックしてはいけません。

メールサーバ:

メールサーバをホスト名もしくはIPアドレスで指定します。(必須)

ポート:

メールサーバのポート番号を指定します。

時限式送信確認待ち時間:

送信先確認画面での待つ秒数を指定します。確認忘れによる未送信を防ぐ機能です。送信確認画面が表示されてから、ここで指定した時間以内に「送信」もしくは「中止」ボタンが押されない場合には、自動的に送信します。

0を指定した場合には、永久に確認を待ちます。

4.4.2 LDAP tab

LDAPタブでは、LDAP関係の設定をします。

この画面でLDAPにアクセスするための情報を設定することにより、mdcは、メール送信先の確認時に、メールアドレスと併せてLDAPにより送信先の「名前」などの情報の表示を行うことができます。

「OK」ボタンにより、設定画面が閉じられ設定が有効になります。

「中止」ボタンにより、設定が中止されます。

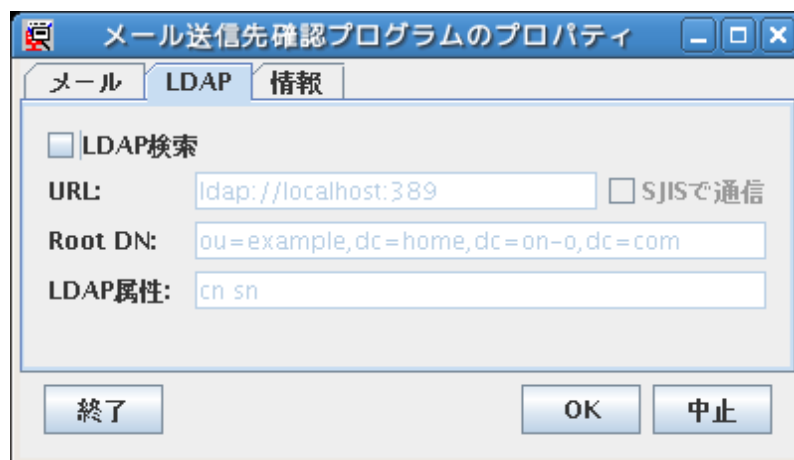


図 2:LDAP 設定画面

LDAP 検索:

LDAP機能を利用する場合にチェックします。

これをチェックすることにより他の項目が、入力できるようになります。

URL:

LDAPのURLを設定します。(LDAPを利用する場合には必須)

Root DN:

LDAPの検索するRoot DNを指定します。

LDAP 属性:

メールアドレスと同時に表示する属性(Attribute)を指定します。

default は「cn」で氏名が表示されます。

複数の項目を指定する場合には、半角スペースで項目を区切ります。

例: cn title

4.4.3 About Tab

情報タブでは、バージョン情報などを表示します。

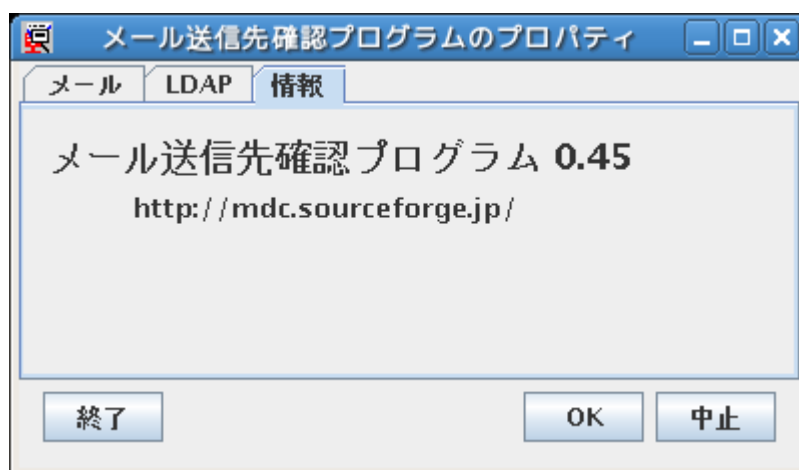


図 3: 情報画面

5 Setup Mail Client

mdc を利用するためには、メールクライアントの設定の変更が必要です。

通常、メールクライアントは、直接プロバイダーのメールサーバに対してメールを送信するように設定されているので、それを mdc 経由に変更するように設定します。

以下では Thunderbird を利用している場合の例を示します。各メールクライアントの設定方法については、それぞれのマニュアルを参照してください。

1. Thunderbird を起動する。
2. メニューの「Edit」の「Account Setting」を開く。
3. 「Outgoing Server (SMTP)」タブを開く
4. 「Server Name:」を「localhost」に変更
5. 「Port」を「8725」に変更

この値は、図 1 のメール設定画面の「受信ポート」にて指定したポート番号です。default は、8725 です。

以上で、メールクライアントが mdc 経由でメールを送信し、メール送信時に送信先のアドレスが確認できるようになります。

6 How to Use mdc

メールクライアントからメールを送信すると、確認のダイアログが表示されます。



図 4: 送信先確認画面

このサンプルでは、takuya@page.on-o.com にメールを送信しようとしているので、宛先のアドレスを確認して、「送信」ボタンを押すとメールは送信されます。

「中止」ボタンを押した場合には、メールの送信はエラーとなり、メールは送信されません。

※LDAPと連携していて、該当のメールアドレスが検索できた場合には、この図の例のようにメールアドレスの後に名前(LDAP 設定画面の Attribute で指定した属性値 default:氏名)が表示されます。

7 Quit mcd

図 1 の設定画面で「終了」ボタンにより mcd を停止することができます。

8 Restriction

mdc は、また開発途中ですので以下のような制限事項があります。

- SSL や、TLS による暗号化された SMTP 通信には対応していません。

9 Appendix: mdc configuration file

mdc の設定ファイル(.checksmtp.properties)について

設定ファイルは、JRE のシステムプロパティ `user.home` の値のフォルダに作成されます。

- Windows2000 では、default は、<システムドライブ>:\Document and Settings\<ユーザー名> (例: C:\Document and Settings\Administrator) です。
- Linux では、ホームディレクトリです。

設定画面で「OK」ボタンを押すことにより、以下の項目が設定されます。

#	プロパティ名	内容	default	必須
1	org.jent.checksmtp.serverHost	メールサーバの名前 利用しているプロバイダーのメールサーバを指定してください。 例: mail.example.co.jp	mail	◎
2	org.jent.checksmtp.serverPort	メールサーバのポート番号 メールサーバのポート番号(1~65535)を指定してください。 通常は変更する必要はありません。	25	×
3	org.jent.checksmtp.port	mdc が利用するポート番号 メールクライアントが mdc に接続するポート番号(1~65535)を設定します。 ポート番号が衝突していない場合には変更する必要はありません。	8725	○
4	org.jent.checksmtp.ldap	LDAP 機能の On/Off LDAP 機能を利用する場合には、true に設定してください。	"false"	
5	org.jent.checksmtp.ldap.providerUrl	LDAP を検索する場合の LDAP URL LDAP サーバの URL を指定します。 例: ldap://certserver.pgp.com:389	ldap://localhost:389	
6	org.jent.checksmtp.ldap.baseDn	LDAP を検索開始するの DN を指定します。 例: ou=active,o=pgp keySPACE,c=us	C=JP	
7	org.jent.checksmtp.ldap.attribute	LDAP の検索結果で表示する属性を指定します。	cn	

#	プロパティ名	内容	default	必須
		Default では、名前を表示します。 例: cn title;lang-ja-jp 英語の指名と、日本語での役職を表示する。		
8	org.jent.checksmtp.ldap.isSjis	LDAP サーバの漢字コード強制変換 このプロパティが true の場合、強制的に Shift JIS だと決めつけて処理を行います。Windows 用の Netscape 向けなどに利用されている LDAP サーバで LDAP の検索結果の漢字が文字化けした場合に利用します。	"false"	
9	org.jent.checksmtp.enableRemoteConnect	他のマシンから mdc を利用許可 X11 エミュレータを利用した Windows 上のメールクライアントから X11 上で mdc を利用したい場合などに true にします。 通常は変更する必要はありません。	"false"	×

mdc の設定ファイル(.checksmtp.properties)のサンプル

```
org.jent.checksmtp.serverHost=mail.example.co.jp
org.jent.checksmtp.serverPort=25
org.jent.checksmtp.port=8725
org.jent.checksmtp.ldap=true
org.jent.checksmtp.ldap.providerUrl=ldap://ldap.example.co.jp:389
org.jent.checksmtp.ldap.baseDn=ou=active,o=example,c=jp
org.jent.checksmtp.ldap.isSjis=false
org.jent.checksmtp.ldap.attributes=cn title;lang-ja-jp
org.jent.checksmtp.enableRemoteConnect=false
```

以上